

村雨の露もまだひぬ まきの葉に
霧たちのぼる 秋の夕暮れ

難波江の葦のかりねのひとよゆゑ
みをつくしてや 恋ひわたるべき

見せばなや 雄島のあまの袖だにも
ぬれにぞぬれし 色はかはらず